

令和2年度 個人テーマの設定について

令和2年度の「授業力向上推進プロジェクト（外国語）」では、昨年に引き続き、新学習指導要領の趣旨である「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善及びICTの活用を主眼に置いた実践・研究を行いました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、5月末まで臨時休校を余儀なくされる中、各学校においてオンラインによる学習支援が行われました。その中で委員が所属するそれぞれの学校で行った授業は、「オンライン授業実践事例集」として県で取りまとめ、県内の各学校で共有されました。学校再開後、委員の所属するそれぞれの学校の生徒の実態や課題、また、育てたい生徒像等を踏まえて、①「主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善」及び②「ICT（MetaMoJi）を活用した授業の実践」を共通のテーマとし、その上で個別のテーマを設定し、日々の授業をいかに「主体的・対話的で深い学び」につなげていくかという視点で実践・研究を行いました。

【田中由美（岐山高校）】

現在、担当する学年では、基礎力が定着していないために、学習内容が理解できず、共通テストで求められる速読力が十分に伸ばせないことやインプットに対してアウトプットを行う活動が少ないため、習得した知識や理解した内容を個人または全体で確認する機会がないという課題がある。加えて、個人の課題として、教科書の内容を、深めたり広げたりつなげたりする視点を生徒に与える工夫が必要であると考え、個人テーマを「インプットからアウトプットへのつながりを意識した活動を取り入れた授業」と設定した。

【安藤万莉英（大垣北高校）】

令和元年度は「読むことを通して、思考力を高める授業」をテーマに取り組んだ。イギリスエクセター大学研修前の「読むこと」の指導は、テキストの内容の理解と言語材料や文法語法の知識理解を主な目的にしており、Q&Aを使ったやり取りやグループ討議、新出の言語材料を使った英作文等を実施しているとはいえ、生徒の主体的、対話的で深い学びが達成できているか、という点では、改善が必要であった。そこで、今年度は、生徒がテキストの主題に主体的に迫り、読むことで自らの考えを深められるような、読むことの指導改善を図りICTを活用した授業づくりに取り組んだ。「読むこと」の指導上の課題は、生徒の振り返りに関わる「メタ認知」の場面を適切に設けることである。生徒が学習方法や内容を振り返りながら学習することで、生徒の自律的な学習につながり、最終的に内省が深まり、思考力が深まると考え、個人テーマを「読むことを通して、振り返りながら思考力を高める授業」と設定した。

【市橋憲和（多治見北高校）】

今年度は、1年生を担当しているが、家庭学習と授業のリンクや授業における各活動に

どのような目的意識をもたせるかが課題である。これまでリテリングを1つのアウトプットの活動として行うことは定着をしてきていると思うが、アウトプット活動に向けて、各活動を行う際に、明確な目的意識を持たせ、深い学びにつなげていきたい。また、前回の授業で学んだ既習の新出単語を小テストに入れることや生徒自身が自分の足りない力を知るために、あえて難しい課題を課すことを通して、現状の課題を解決していきたいと考え、個人テーマを「アウトプット（発表・やり取り）に向けた各活動目的の明確化とその授業実践」と設定した。

【高田敏博（中津川工業）】

本校では、英語が苦手な生徒が非常に多く、中学校で習うような基本的かつ簡単な単語が発音できない生徒も少なくない。昨年度まではPower Pointを用いての多読、速読に多くの時間を費やし、読めるようにはなったが、意味の理解という点においては不十分だと感じていた。今年度は、チャンク（スラッシュごとの意味のまとまり）を意識した音読に力を入れたい。意味を考えながら読むことを軸として、多読、速読を行い、最終的にSight Translationができるようになることを目標として、個人テーマを「チャンクを意識した音読活動の充実」と設定した。

【林輝将（飛騨高山高校）】

今年度は、普通科2年生を担当している。授業の中で、形式的なSpeaking活動ではなく、SpeechやDebateといった本格的なSpeaking活動を実施したいと考えているが、まとまった時間の捻出に苦慮している。生徒の活動時間の確保を目的に、授業進行を完全にパワーポイントを活用した形式に移行したことで、板書時間を大幅に短縮できたことだけでなく、学年で学習内容を統一できること、過去の学習内容を瞬時に提示することで、生徒ことなどが視覚的に認識しやすくなったことなどのメリットがあった。しかし、授業内でSpeechやDebateを実施するのに十分な時間がまだ足りない。そこで教員の説明する時間が大半を占めるInput活動を授業外に移動することにより、まとまった時間を捻出できないか考え、個人テーマを「主体的な学習姿勢の育成と、活動時間のさらなる捻出のための反転授業の実施」と設定した。

【野添祐輔（高山工業高校）】

今年度は、1、2年生を担当しているが、両学年ともに英語が苦手な生徒が多く、家庭学習の習慣があまりないため、復習による定着が難しいという問題がある。習熟度別クラスのため様々なレベルの生徒を教えているが、英語を苦手とする生徒には、中学校レベルの語彙や文法事項の定着が不十分な傾向がある。基礎力の定着と英語を学ぶことに関する興味を持たせることは、意識して継続して取り組んでいるが、今年度は特に、学習の習慣づけのため、ワークシートを用いて授業中に学習事項を確認したり、本文の内容や文法事項など学習内容の区切りごとに確認したりできるチェックリストを活用することで、前回

の授業で学習した項目や単語の確認を繰り返し実施することや、フラッシュカードや様々な音読など、できるだけ生徒の興味をもたせて反復練習をさせたいと考え、個人テーマを「反復による基礎の定着」と設定した。